［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年2月27 日

【評価実施概要】

事業所番号	1072900457
法人名	特定非営利活動法人サポートハウスよろこび
事業所名	グループホームほたるの里
所在地	群馬県太田市新田大根町259-5 （電　話）0276-57-0778

評価機関名	特定非営利活動法人　　群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年2月7日

【情報提供票より】（ 20 年　 1 月　 24 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　14年　8月　1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	11　人	常勤　9人，非常勤　1人，常勤換算　6．8人	

（2）建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り
	1 階建ての　1 階 ～　1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	46,000　円		その他の経費（月額）	
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有 200,000		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日 1,500円			

（4）利用者の概要（　1月　24日現在）

利用者人数		9 名	男性	3 名	女性　6 名
要介護1		2　名	要介護2	3　名	
要介護3		2　名	要介護4	0　名	
要介護5		2　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	85 歳	最低	71 歳	最高　94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	新田診療所・宏愛会第一病院・東邦病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

お世話になった地域の方々に恩返しをしたいとの気持ちで開設した「ほたるの里」は、入居者主体のケアをモットーとし、理事長の意思の下に、全職員が常に「目配り・気配り・思いやり」を基調としたケアを実践している。地域住民との交流にも積極的で、日常的に来園者が多く、地域住民を招いて開催する夏祭りには100人もの住民が参加し、入居者と共に楽しい時を過ごしている。職員は業務に生きがいを持ち、研修にも積極的に参加している。理事長は、職員が不安なく働けるよう職場環境にも配慮し、入居者と職員、及び職員間の信頼関係を最優先した生活が営まれ、入居者の様子からも質の高いケアが提供されていることが伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回評価の改善課題を全職員で話し合い「嘱託医・主治医への定期的な受診、体調不良時の検査等に加えて、年1回の健診の機会を確保する」「薬剤や刃物等危険物は、常に職員が管理する」等の改善に取り組んでいる。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 職員は、自己評価の重要性を認識し、全員で討議して作成した。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議では、住民側からの質問や要望に対応している。また、地域密着型サービスについての理解を広め、ホームの見学会等を開催している。会議を夜間に開催している為、現状では市の職員が欠席しているが、今後、積極的に働きかけて地域密着型サービスの有用性を理解して頂き、会議に出席される様に要望して頂きたい。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 日常的に家族とコミュニケーションを図ることで、苦情の発生を防止している。来園時に聴取した希望や不安は、ミーティングで話し合い対応している。ケアプランは、家族の希望を取り入れて作成し、ケース記録を家族に開示し報告している。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 特別組合員となり、地域の祭りや老人会に参加したり、近隣住民から採れたての野菜を頂いたり、中学生ボランティアを受け入れたり、保育園児との交流に努めている。地域の方々から認知症の相談を受け、認知症の勉強会を開催したり、地域の高校に介護の講師として職員を派遣したり、地域の一員として努めている。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立以来掲げている理念を、見直したいと考えている。地域の中でその人らしく生活することを支えるケアを目指した、地域密着型サービスの意義を全職員で確認し合い、協議の下で新しい理念づくりに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で復唱し、ケアカンファレンスやミーティング等で必ずホームの理念に触れ確認し合い、全職員が目標に向かって入居者を支援している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会や町内会・隣組に加入し、回覧板を回してもらったり、老人会や祭りなど地域行事に参加している。採れたての野菜の差し入れを受けたり、中学生ボランティアの受け入れや保育園児との交流も行っている。ホーム主催のお祭りには、地域の方を招く等積極的に交流している。地域の介護従事者等を対象とした講演会を開催し、認知症になっても地域で安心して暮らしていくための取り組みを行っている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員全員が理解し、前回評価の結果をふまえて改善点について話し合い、「定期的な受診支援」「危険物の管理の徹底」等ケアの質向上に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回程度、定期的に開催している。家族、地域住民、民生委員、市議会議員、市担当者で構成しているが、開催時間が夜間のため市担当者は出席していない。会議では、事業所側からの報告と、委員側からの質問や意見・要望等に対応する双方向的な会議としている。会議の機会を活かして、地域密着型サービスへの理解を広めている。	○	開催時間が夜間ということもあり、市の担当者が出席していない。積極的に働きかけて会議に出席されるように要望して頂きたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、入居状況を定期的に報告したり、ホーム主催の講演会案内を市の担当課窓口に置いてもらっている。施設見学会を開催し、市の担当者が来園する機会を作っている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来園時に、ケース記録を開示し報告している。金銭管理は、金銭出納帳を作成し、毎月報告している。また、2ヶ月毎にホーム便りを発行したり、行事の写真をホーム内に掲示している。現在、旅行やレクレーション等のビデオ撮影会を企画し、入居者と家族が一緒に楽しめる報告の機会を検討している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ロビーに、苦情受付箱を設置している。また、市町村や国民健康保険団体連合会の相談窓口についても繰り返し説明している。日常的に家族とのコミュニケーションが図られ、家族から出された意見は理事長と職員が一緒に討議しホームの運営に活かしているが、家族会としての機能ははたされていない。	○	家族会は設置されているが、未だ開催されていないので、家族会の役割を認識し、支援されることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一人の入居者に対し複数の職員が担当することで、職員の異動や離職のダメージを最小限に止めている。引継ぎは充分に時間をかけて行い、それぞれの入居者に紹介しコミュニケーションをとりながら徐々に馴染めるよう心がけている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、常勤、非常勤を問わず、内部・外部での研修の機会を確保している。近隣の施設や行政職員を招き、認知症の講演会を開催している。県連協、及び各地で開催される認知症ケアに関する研修会に職員が交代で参加し、他の職員に伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型連絡協議会の研修に参加している。レベルアップ°交換研修を年2回以上実施している。交換研修では歩行リハビリや踊り体操などを紹介し、お互いの良い点を取り入れて、介護サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、ホーム見学や体験入居を行っている。時には併設デイサービスを利用し、馴染みながらの入居をしている。入居前に数回訪問して面接し、本人の生活環境を把握しサービス提供に繋げている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、食事の準備や片付け、その他生活のなかで役割分担を行い、お互いが協働しながら生活している。職員は、常に感謝の言葉を入居者に伝えている。現在、菜園を拡大し、入居者と一緒に野菜作りを行うよう計画している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を、本人や家族から聴取している。聴取が困難な場合は、日々のかかわりの中で言葉や表情から喜び、楽しみ、不安などを抽出し把握に努めている。アセスメントシートを活用し、記録して家族に確認をとって検討している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや要望を聴取し、入居者一人ひとりのニーズにどう対応していくのかを職員全員で検討している。聴取した内容や検討した結果を、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ミニカンファレンスは、本人や家族の希望を取り入れて随時行っており、3ヶ月毎の計画の見直しに繋げている。状態が変化した時や介護計画がそぐわないと判断した際には、計画を見直し、常に現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状態に応じて、通院や入院中の洗濯を行なっている。また、地元の医師と連携し、往診にも対応している。併設デイサービスのレクレーションに、入居者が参加している。現在、近隣の高齢者が状況に応じてショートステイやデイサービスを利用したり、緊急時には宿泊できる施設の建設も検討している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望で受診している。協力医療機関は、往診にも対応している。通院は、家族の都合に応じて同行を行い、体調の変化等の情報は、家族に詳細に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、入居時に家族に確認し同意をもらっている。ターミナルへの対応方針を医師、家族、看護師、介護職などで話し合っている。ホームに看護師が勤務し、24時間往診可能な医療機関と連携しており、随時家族と話し合いを持ちながら進めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護や接遇に関する勉強会を、定期的に開催している。入居者の個人情報の取り扱いには常に注意を払い、個人情報の取り扱いの厳格化を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、レクレーション等、基本的な一日のスケジュールはあるが、強制することなく、一人ひとりのペースに合わせて将棋や囲碁、カラオケ等や新聞を読んで過ごしたり、併設デイサービスに参加したりして暮らせるように支援している。買い物や散歩等はそれぞれの状態に合わせて行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、入居者と一緒に食事をしながら、声かけを行い介助を行っている。食事の準備や後片付けは入居者と一緒に行い、食事前後のあいさつは入居者が順番で行なっている。食材は、ホームの菜園で育てた野菜を使用している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の個浴を基本とし、希望があれば毎日の入浴も可能であり、一人ひとりの習慣に合わせた支援を行っている。介護職員が脱衣室と浴室に一人づつ付き、安全に配慮ながらゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の役割分担表が食堂兼居間にはられ、園芸、食材の準備、おしぼりたたみ、洗濯物たたみなど、それぞれの特性を活かした役割が決められている。また集団で行うレクレーションの他、個別の力を活かした書や水彩画、盆栽、編物、ぞうきん縫い、ペンダント作り等の楽しみごとの支援をしている。作品は玄関などに展示して、皆に紹介して讃え、更なる意欲に繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、近くのほたる公園を散歩したり、園庭に出てお茶を楽しんでいる。ドライブで、コスモス畑、あじさい寺、桜公園等の四季のお花見に出かけたり、入居者の希望に合わせて、月2回回転すしやラーメン店等に外食に出かけたりしている。新年には初詣にも出かけたり、年に1回の温泉一泊旅行を実施している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間（20時過ぎ）を除き、玄関の鍵はかけていない。理事長は、毎日朝礼で「目配り、気配り、思いやり」の徹底について職員に話し、職員は外出したい気持ちを理解して徘徊に同行したり、誘導したりしている。見守りを徹底し、安全面に配慮して一人ひとりが自由な暮らしを送れるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回訓練を実施している。運営推進会議において、災害時に協力を得られるよう話し合われ、今回より地域の方に参加していただいている。ホームで作成されたマニュアルを、勉強会で職員が学習している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が、栄養バランスを考慮して調理している。食事摂取量、水分摂取量、残量を毎日記録して、摂食状況を家族の来園時に報告している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間にオープンキッチンが設置され、食卓、ソファー、テレビ、新聞等が置かれている。廊下幅は広く所々にソファー置かれ、入居者同士で過ごせる場となっている。壁には施設行事の写真や、季節感のある作品が飾られている。各居室の入口には色とりどりの花や似顔絵が掛けられ、居室間違いを防ぐ工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室に、ベット、ふとん、エアコンを備え付けている。各居室には、使い慣れた家具が持ち込まれ、家族の写真やレクレーションで描いた水彩画、ホーム便りなどが貼られている。家族の宿泊ができるスペースが確保されている。		